

登録コード:MH165400 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産学実習Ⅰ（分娩介助・妊産褥婦新生児ケア）【20M～24M】 Practice in Midwifery and maternity careⅠ		
担当教員	中込 さと子 他 金井 誠・芳賀 亜紀子・徳武 千足・鮫島 敦子・佐藤 優香		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期		
単位数、講義室	10単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	性と生殖、親になる人を全人的に支援する方略を学ぶ。
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	妊産褥婦と新生児に生じる身体心理社会的変化を分析し、健康問題を解決する方法を理解する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	セクシャルリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもに対し、広い視野で助産実践を捉え、専門的な助産のケア実践を計画し、実行し、評価することができる。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	セクシャルリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもについて、国内外の文化から理解し、多様性の尊重について学ぶ。変化する社会の動向を見据え、女性、親となる人々と子どもへの保健政策を探索する。
	文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。	⇔	出産、子育てやセクシャルリプロダクティブヘルス／ライツについて、国内外の文化から理解し、多様性の尊重について学ぶ。
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	⇔	周産期医療に関する科学の進歩、現代の社会構造の変化をとらえながら、的確に個人のニーズと価値を尊重し、課題解決のための助産ケアを実行する力を獲得する。
	MH23カリ・保健・看護		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	セクシャルリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもに対し、広い視野で助産実践を捉え、専門的な助産のケア実践を計画し、実行し、評価することができる。
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	周産期医療に関する科学の進歩、現代の社会構造の変化をとらえながら、的確に個人のニーズと価値を尊重し、課題解決のための助産ケアを実行する力を獲得する。
	＜問題解決力＞保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。	⇔	妊産褥婦と新生児に生じる身体心理社会的変化を分析し、最新情報と科学的根拠に基づき健康問題を解決するための助産ケア方法を運用することができる。
	＜対人関係形成・協働力＞保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、看護専門職者として協働的に役割を担うことができる。	⇔	セクシャルリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもに対する全人的に支援をする方略を学ぶ。また、周産期医療システム、地域母子保健システムに関連する多職種との協働を理解する。
	＜プロフェッショナリズム＞看護専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	⇔	セクシャルリプロダクティブヘルス／ライツ、女性の社会参加と健康支援、妊娠・出産・子育てをする人々と子どもについて、国内外の文化から理解し、多様性の尊重について学ぶ。変化する社会の動向を見据え、女性、親となる人々と子どもへの保健政策を探索する。
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	妊産婦および新生児に必要な基本的診断能力と技術および態度を身につけるとともに、地域において助産師がとるべき母子保健活動や役割について考え、実践する基礎的力を習得します。 本実習は、3年次までの看護学全科目と、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ～Ⅴ、助産管理全てを修めた学生のみが進むことができます。これらの科目で学んだことを全て注ぎ、取り組む実習になります。 本実習は、助産師資格取得の必須科目として開講します。全教員が助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	1. 学内で知識や技術を確認後に実習に入ります。 2. 実習は3カ所の施設に分かれて行います。 3. 分娩介助の実習は、分娩待機実習とし、産婦の分娩開始後、早期の段階から分娩終了まで担当します。 そのため、実習時間が夜間におよぶこともあります。 4. 10例を目標に産婦を受持ちます。事例毎に省察しながら自己の分娩の判断や技術の評価を行います。 5. 妊娠期にある人、産褥期にある人と新生児を受持ちます。		

授業計画	健康状態のアセスメント、カウンセリング、健康教育を行います。 6. ハイリスク産婦の管理やNICUの見学実習をします。 7. 地域母子保健実習では、市の活動と乳児院での実習を行います。 8. 各実習施設で助産管理実習を行います。 <実習期間> 分娩介助実習 : 5月25日～の10週間 分娩介助実習予備: 8月 1日(土)～9月11日(金) 地域母子保健実習: 8月～9月末のうち1週間(予定) 助産管理実習 : 実習後半期 周産期センター実習(子ども病院): 8月下旬の1日 早期臨床体験(ECE;Early Clinical Exposure): 2月～3月中の5日程度 乳児院実習: 8月予定(1日) 評価は各項目に対して随時行う。 実習中に授業アンケートを行う。
授業の進め方	松本市内3カ所の実習施設(信州大学医学部附属病院、丸の内病院、相澤病院)において妊産婦・新生児ケアおよび分娩介助を中心に実習を進めます。 長野県立こども病院にてNICU実習・ハイリスク妊産婦実習を行います。 松本市保健センターでは、新生児訪問を主とした地域母子保健実習を行います。また松本乳児院にて社会的ハイリスクにある家族支援の実習を行います。信州大学医学部附属病院の周産期こころの医学講座の精神科外来でメンタルヘルスケアと医療を必要とする人々への外来支援を学びます。 実習施設については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって変更の可能性あります。
テキスト, 教材, 参考書	助産学講座1-10(医学書院) プリンシプル産科婦人科学2(メジカルビュー社) 授業における配付資料 など
成績評価の方法	1例毎の分娩介助実習内容と面談とカンファレンス内容、地域母子保健実習レポート、助産管理実習レポート、精神科外来実習レポートを合わせて総合的に判断します。
成績評価の基準	受け持った10例以上の妊産婦・新生児に関する実習記録、分娩介助評価表、継続事例への助産計画および助産ケア、地域母子保健実習、助産管理実習に関して、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景をアセスメントできており、(iii) その問題にどのような課題や問題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して適切なケアが選択されており、(v) 適切な評価や見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」とする。(i) から(v)の5項目を満たしていれば「卓越している(秀)」, 4項目までできていれば「かなり上にある(優)」, 3項目までできていれば「やや上にある(良)」, 2項目であれば「水準にある(可)」とする。
事前事後学習の内容	本授業の単位取得には495時間の学習が必要です。 実習中は毎日、次の日の行動目標・計画を立案しながら予習を1時間程度行う。 実施後は、受け持ち事例等の記録を行い知識・技術の復習を行う。 実習要項にある実習目標が達成できたか毎日自己評価表を用いて評価すること。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	自主的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。実習はグループで行うので、他の学生の心身にも気を配りながら、皆で力を合わせて取り組んでください。 中込のメールは以下のとおりです。(snakagomi@shinshu-u.ac.jp) オフィスアワーは曜日を固定していません。メールでアポイントの連絡をください。個別に日時を合わせます。担当教員の研究室は保健学科棟中校舎3階にあります。